

TOSHIBA

東芝空気制御システム 据付説明書



EG99822401-3

R410A冷媒機種

<室内機>

温暖地向け

NTS-F1123Y2-2
NTS-F1403Y2-2
NTS-F1603Y2-2

寒冷地向け

NTS-F1123N1-2
NTS-F1403N1-2
NTS-F1603N1-2

組み合わせ室外機はカタログをご覧ください。

<リモートコントローラ(別売品)>

RBN-CM7H

<ボリュームダンパー(別売品)>

RBN-JD250K

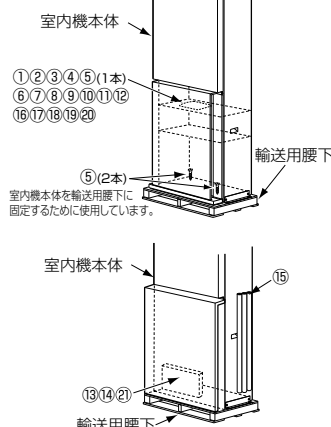
お知らせ

- この空気制御システムはオゾン層を破壊しないHFC系R410A冷媒を使用しています。
- 本説明書は室内機側の据付工事方法を記載してあります。
本説明書およびハウスメーカーごとに定められた施工ルールに従って設置してください。
- 室外機の据え付けは、室外機に付属している据付説明書に従ってください。
- この室内機はR410A冷媒用です。室外機は必ずR410A冷媒用と組み合わせてください。
- 室内機据付の床面及び壁面が木製以外の場合、アンカーボルト(M8×L50以上)が3本必要になります。現地にて調達してください。

付属部品

No	部 品 名	個数	形 状	No	部 品 名	個数	形 状
①	据付説明書	1	本紙	⑬	φ150 ダクト接続口	1	
②	取扱説明書	1	—	⑭	給水ホース (加湿器用)	1	
③	保証書	1	—	⑮	断熱材(給水ホース用) (1m)	3	
④	断熱材(冷媒配管用) (15cm)	2		⑯	断熱材(継ぎ目用) (9cm)	3	
⑤	スクリーボルト	2+1		⑰	断熱材(ドレン配管用) (110×140)	1	
⑥	スクリーボルト用 ワッシャ	3		⑱	断熱材(ドレン配管用) (60×100)	1	
⑦	ダクト接続口 固定ねじ	4		⑲	断熱材(ドレン配管用) (35×140)	1	
⑧	風量調整ラベル	2		⑳	M6トラス頭ねじ	4	
⑨	パテ	2		㉑	活性炭脱臭フィルター	1	
⑩	カフス	1					
⑪	断熱材(継ぎ目用) (外径5cm×15cm)	1					
⑫	固定バンド	16					

収納場所



もくじ

安全上のご注意	2
据え付けについて	2
据え付けのまえに	3
据付場所の選定	3
据え付けのまえの準備	4
1. 室内機の据え付け	4
2. ドレン配管	5
3. 加湿器給水配管	5
4. 冷媒配管	6
5. 換気ユニット用断熱ダクトの取り付け	8
6. 空調用断熱ダクトの取り付け	9
7. 電気配線	9
8. 仕上げ	11
9. 試運転	11
10. 現地設定メニュー	12
11. 点検コード一覧	15



◇お客様への引き渡し

- 「保証書」「取扱説明書」とこの「据付説明書」を必ずお客様に渡してください。
- 「保証書」には必ず所定の事項(★印箇所)をご記入のうえ、お客様にお渡しください。
- 「取扱説明書」の内容を十分ご説明のうえ、引き渡しをお願いします。

日本国内専用品
Use only in Japan

安全上のご注意

- 据付工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ据え付けてください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。表示と意味は次のようになっています。

	警告	「誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があること」を示します。
	注意	「誤った取り扱いをすると人が傷害（※ 1）を負う可能性、または物的損害（※ 2）のみが発生する可能性があること」を示します。
* 1： 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。 * 2： 物的損害とは、財産・資材の破損にかかわる拡大損害をさします。		

警告

- 据え付けは、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する
ご自分で据付工事され不備があると、水漏れや感電・火災の原因になります。
- 据付工事は、R410A 用に製造された専用のツール・配管部材を使用し、この据付説明書に従って確実に行う
使用している HFC 系 R410A 冷媒は、従来の冷媒（R22）に比べ圧力が約 1.6 倍高くなります。専用の配管部材を使用しなかったり、据え付けに不備があると破裂・けがの原因になり、また、水漏れや感電・火災の原因になります。
- 据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行う
耐重量不足や取り付けが不完全な場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が電気設備に関する技術基準、内線規程、および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。また、電圧は製品の定格電圧と合わせる
電源回路容量不足や施工不備があると、感電・火災の原因になります。
- 電源電線・室内外接続線は途中接続、ヨリ線や単線どうしの接続およびヨリ線の先端に単線を接続することは絶対に行わない
接続や固定が不完全な場合は、発熱・火災の原因になります。
- 室内機・室外機間の配線は、コードクランプが浮き上がらないように成形し、確実に取り付ける
コードクランプの取り付けが不完全な場合は、端子部の発熱・火災や感電の原因になります。
- 据付工事は、必ず付属部品または指定の部品を使用する
使用しないと、ユニットの落下、水漏れ、火災、感電の原因になります。
- 据え付けや移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒（R410A）以外の空気などを混入させない
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧となり、破壊によるけがなどの原因になります。
- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気をする
冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 設置工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- アース工事を行う
アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。
- ふる場など、水がかかったり、湿気の多い場所を据付場所に選ばない
絶縁劣化により、感電、火災の原因となります。
- 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所には設置しない
万一ガスが漏れてユニットの周囲に溜まると、火災の原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って行う
据付に不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。
- 据付作業では運転する前に、次のことを確認する
・配管接続は確実に取り付け、漏れがないこと
・サービスバルブの弁が開いていること
サービスバルブが閉まった状態で圧縮機を運転すると、異常高圧となり圧縮機などの部品の破損の原因になります。また接続部で漏れがあると空気を吸い込むなどで更に異常高圧となり破裂、けがの原因になります。
- ポンプダウン作業では、次のことを確実に行う
・冷凍サイクル内に空気を混入させない
・サービスバルブを 2 つとも閉じたあと、圧縮機を停止させ冷媒配管をはずす
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けがなどの原因になります。
- 据え付け時、万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない配慮をする
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据え付けてください。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据え付け工事を行う
据え付け工事に不備があると、転倒・落下などによる事故の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する
接続や固定が不完全な場合は、火災などの原因になります。
- 配管内のフラッシングは必ず行う
フラッシングが不十分だと、加湿材が濡れなかったり、異臭の原因になります。
- 指定冷媒以外は使用（冷媒補充・入替え）しない
指定冷媒以外を使用した場合、機器の故障や破裂、けがなどの原因になります。
- 金属粉などの粉塵が発生する場所には据え付けない
金属粉などがエアコン内部に付着・堆積すると自然発熱することがあり、火災の原因になります。
- フロン類をみだりに大気中に放出しない
フロン類を大気中に放出することは、法律で禁止されています。

注意

- 漏電ブレーカーの取り付けが必要
漏電ブレーカーが取り付けられていないと感電の原因になることがあります。
- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するよう配管する
不確実な場合は屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- フレアナットはトルクレンチで指定の方法で締め付ける
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になることがあります。
- 据え付け工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また、この据付説明書は取扱説明書とともに、お客様に保管いただくように依頼してください。
- 室外機の吸込み口やアルミフィンにさわらない
けがの原因になることがあります。
- 据付作業では手袋（※）を着用する
着用しないと部品などにより、けがの原因になることがあります。（※軍手など厚手の手袋）
- 室外機は小動物のすみかになるような場所には設置しない
小動物が侵入して内部の電気部品に触れると、故障や火災の原因になることがあります。
またお客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

据え付けについて

この機種はオゾン層を破壊しない HFC 系 R410A 冷媒を採用しています。

- R410A 冷媒は従来の冷媒に比べ圧力が約 1.6 倍高くなり、水分・酸化皮膜・油脂などの不純物の影響を受けやすくなります。また、R410A 冷媒の採用に伴い冷凍機油も変更しており、据え付け工事のときに水分・ゴミ・従来の冷媒や冷凍機油などが冷凍サイクル内に混入しないよう注意が必要です。
- 冷媒や冷凍機油の混入を防ぐため、本体チャージ口や据え付けツールの接続部分のサイズを従来冷媒用と違えており、下記の R410A 冷媒用専用ツールが必要です。
- 接続配管はクリーンな新品の配管部材を使用し、水分・ゴミを混入させないよう施工してください。また、既設配管は内部の不純物の問題があるため使用しないでください。
- 既設配管を流用する場合は、室外機に付属の据付説明書に従ってください。

必要器材および取り扱い上の注意点

据え付け工事を行うために、下表に示す工具・器材を準備する必要があります。

これらの中で新規に準備する工具・器材は、必ず専用品としてください。

記号の説明 ◎：新規に準備（R410A 専用として R22・R407C と使い分けが必要） △：従来工具を流用可

使用する機器	用途	工具・器材の使い分け
ゲージマニホールド	真空引き冷媒充填	◎新規に準備、R410A 専用
チャージングホース	および運転チェック	◎新規に準備、R410A 専用
チャージングシリンダー	冷媒充填	使用不可（冷媒充填ハカリによること）
ガス漏れ検知器	ガス漏れチェック	◎新規に準備
真空ポンプ	真空乾燥	逆流防止アダプタを取り付ければ使用可
逆流防止付き真空ポンプ	真空乾燥	△ R22（現行品）
フレアツール	配管のフレア加工	△寸法の調整で使用可
ベンダー	配管の曲げ加工	△ R22（現行品）
冷媒回収機	冷媒の回収	◎ R410A 専用
トルクレンチ	フレアナットの締め付け	◎φ 12.7、φ 15.9 用は専用
パイプカッター	配管の切断	△ R22（現行品）
冷媒ボンベ	冷媒充填	◎ R410A 専用 識別：冷媒名記載
溶接機・窒素ボンベ	配管の溶接	△ R22（現行品）
冷媒充填ハカリ	冷媒充填	△ R22（現行品）

冷媒配管について

この機種の据え付けには、R410A 冷媒対応のフレア方式配管キットを使用してください。

■R410A 冷媒用配管キットを使用する場合

R410A 冷媒機種の発売に伴い、据え付けに使用する配管キットには、配管の梱包箱に冷媒種・対応冷媒名・配管肉厚が表示されています。

この機種の据え付けには、必ず、
冷媒種：2 種、対応冷媒名：R410A
と表示されている配管を使用してください。（適用冷媒種は、配管の断熱材被覆にも約 1m ごとに記号化して表示してあります。この表示が「②」のものを使用してください）
また、フレア加工、フレアナットも R410A 冷媒用のものが必要ですが、この表示のある冷媒配管キットでフレアナットが付き、フレア加工してあるものは、そのまま使用できます。

■R410A 冷媒用配管キットを使用しない場合

1. 従来の配管キットを使用する場合
●適用冷媒種の表示のない従来の配管キットを使用する場合は、必ず、配管肉厚がφ 6.4、φ 9.5、φ 12.7 は 0.8mm、φ 15.9 は 1.0mm のものを

- 使用してください。
従来の配管キットで、配管肉厚が上記以下の薄肉配管は、耐圧強度が不足しますので絶対に使用しないでください。
2. 一般の銅管を使用する場合
●銅管は JIS H 3300「銅および銅合金継目無管」の C1220 タイプで、内部の付着油量 40mg / 10m 以下、配管肉厚はφ 6.4、φ 9.5、φ 12.7 は 0.8mm、φ 15.9 は 1.0mm のものを使用してください。上記以外の薄肉配管は、絶対に使用しないでください。
 3. フレアナットおよびフレア加工
●フレアナット・フレア加工も従来冷媒用と異なります。フレアナットは本体付属のもの、または R410A 用を使用してください。
●フレア加工は『冷媒配管の接続』の部分をよく読み、加工してください。

据え付けについて (つづき)

冷媒配管およびダクト

- 冷媒配管およびダクトが防火区画を貫通する場合、貫通部の隙間はモルタルその他の不燃材であること。
- 冷媒配管およびダクトが防火区画を貫通する場合、貫通部分またはその近くに防火ダンパーを設けること。
そのダンパーには火災時の煙・熱を感知して、自動的に閉鎖し、閉鎖後は遮煙性能を有するものであること。

据え付けのまえに

据え付け部材

下記の部材は付属品以外に必要なものです。現地にて調達してください。

No.	部 品 名	備 考
1	ドレン配管 配管材料：硬質塩ビ管 呼び径φ 25mm（内径） 塩ビ継手エルボ 呼び径φ 25mm シリコン：セメダイン社シリコンシーライト相当品（φ 25 用主ドレン部隙間埋め用）	
2	接続配管 液 側：φ 9.5mm ガス側：φ 15.9mm	
3	冷媒配管用断熱材 発泡ポリエチレンフォーム 厚さ 10mm 以上	
4	パテ 冷媒配管取入口および加湿器水配管部隙間埋め用	
5	室内機・室外機接続電線 平形ビニール外装ケーブル（Fケーブル） φ 1.6mm 3 芯	
6	アース線 φ 2.0mm	
7	リモコン渡り配線 VCTF：0.5mm ² ～ 2.0mm ² 2 芯	
8	換気ユニット用ダクト 断熱ダクト φ 150	
9	締め付けバンド ダクト固定用 φ 150 × 1 個 空調用ダクト固定用 φ 250 × 2 個	
10	換気ユニット用ダクト接続部断熱材 発泡ポリエチレン 厚さ 6mm 以上	
11	空調用断熱ダクト接続部断熱材 発泡ポリエチレン 厚さ 6mm 以上 × 2 枚	

据付場所の選定

⚠ 警告

可燃性ガスの漏れるおそれのある場所への設置は行わない
万一ガスが漏れて室内機の周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。

⚠ 注意

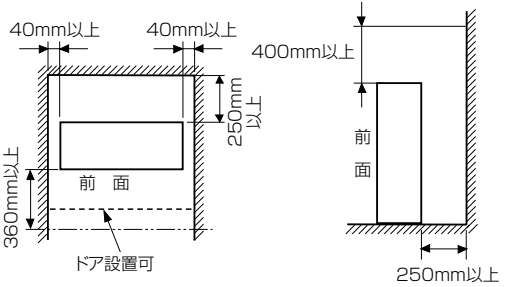
- エアコンの吹出口は火災報知器より 1.5m 以上離して設置する
火災発生時に火災報知器の作動が遅れる、または検出できない場合があります。
- 蒸気が多く発生するような場所、蒸気が発生させる機器
近傍に室内機を設置しない
ユニット内蔵部品が結露し、故障するおそれがあります。

室内機を次のような場所に設置することは、さけてください。

- 酸性またはアルカリ性雰囲気（温泉地帯・化学薬品工場・燃焼器の排気を吸込む場所・次亜塩素酸ナトリウムを噴霧する場所など）…熱交換器（アルミフィン・銅パイプ）などに腐食を起こすおそれがあります。
- 切削油などの機械油の立込める雰囲気（熱交換器の腐食・熱交換器目づまりによる霧の発生・フィルター目づまりによる性能低下および結露・プラスチック部品の破損・断熱材のはがれなどを起こすおそれがあります。
- 食用油煙が発生する場所（食用油を使用する厨房や焼肉・お好み焼き店など）…フィルター目づまりによる性能低下および結露・プラスチック部品の破損などを起こすおそれがあります。
- 吹き出しの気流を乱す換気口や照明器具などの障害物が近くにある場所（気流の乱れにより、能力低下や機器の停止のおそれがあります。）
- 電源に自家発電装置を使用している場所…電源周波数・電圧が変動し、エアコンが正常に動作しないことがあります。
- 金属粉などの粉塵が発生する場所には据え付けしないでください。金属粉などがエアコン内部に付着・堆積すると自然発熱することがあり、火災の原因になります。
- 特殊用途（食品・動植物・精密機器・美術品の保存など）では使用しないこと。（保存物の品質などに損害のおそれがあります。）
- 高周波の発生する機器（インバーター機器・自家発電機・医療機器・通信機器）がある場所（エアコンの誤動作や制御の異常や、それら機器へのノイズによる弊害が生じるおそれがあります。）
- 据え付けた下に、ぬれては困るものがある場所（湿度 80%以上のときやドレン口が詰まった場合に、室内機から露が滴下し損害が生じるおそれがあります。）
- 有機溶剤を使用している場所
- ドアまたは窓の近くで高温の外気と接するおそれのある場所（結露するおそれがあります。）
- 特殊なスプレーを頻繁に使用する場所
建物の金属部とエアコン金属部との電気絶縁は電気設備技術基準（省令第59条、基準の解釈第167条3項）に従ってください。

据付スペース

据え付け・サービスに必要なスペースを確保してください。
前面側にドアを設置する場合、ドアを開けた状態で 360mm 以上確保すればサービス可能です。

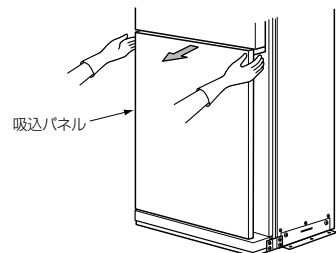


据え付けのまえの準備

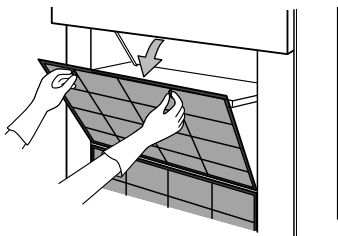
お願い

本作業を行わないと、搬入時に部品が変形する可能性があるので必ず実施をしてください。

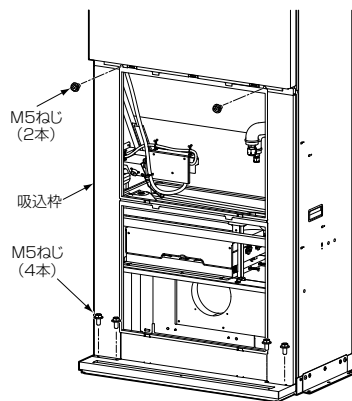
1 吸込パネルの上部を手前に引いて取りはずします。



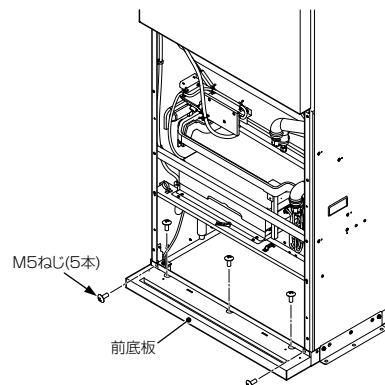
2 エアフィルタのつまみを手前に引いて取りはずします。



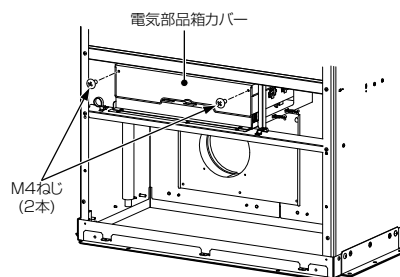
3 吸込枠を固定している M5 ねじ（上側 2 本、下側 4 本）をはずし、吸込枠を取りはずします。



4 前底板を固定している M5 ねじ（5 本）をはずし、前底板を取りはずします。



5 電気部品箱カバーの M4 ねじ（2 本）をはずし、電気部品箱カバーを取りはずします。



4

室内機の据え付け

警告

据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行う強度が不足している場合は、室内機の転倒により、けがの原因になります。



台風などの強風、地震に備え、所定の据え付け工事を行う

据え付け工事に不備があると、転倒・落下などによる事故の原因になります。



室内機の据付

転倒防止は必ず実施してください。

お願い

室内機を据え付ける場合、次のことを守ってください。

- この室内機は薄形状をしていますので、転倒事故を未然に防止する意味から、必ず、床面に転倒防止措置を実施し、室内機をしっかりと固定してください。固定しないと転倒して危険です。
- 室内機を所定の位置に搬入し、セットしたら、安全のため、ただちに室内機を床面に固定してください。

室内機固定ボルト

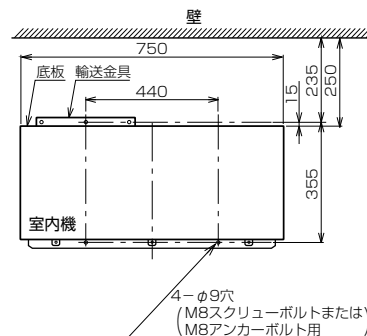
○床面が木製の場合、輸送用に使用している『⑤スクリーボルト（M8 × L50）』2 本と本体内部に付属している『⑥スクリーボルト』1 本を使用してください。

○上記以外の場合
市販のアンカーボルト（M8 × L50 以上）などを 3 本現地調達してください。

お願い

室内機を据え付ける床面が木製以外の場合、アンカーボルト（M8 × L50 以上）が 3 本必要になります。現地に調達してください。

〈壁面から 250mm 離した場合の下穴配置図〉



室内機床面固定方法

室内機背面と壁面のスペースは 250mm 以上確保してください。

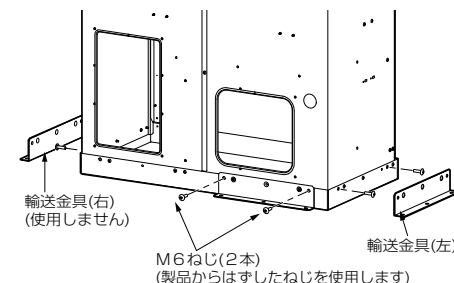
換気用断熱ダクトの接続ができなくなります。

1 (1) 輸送金具（左）（右）を取りはずします。

(2) 輸送金具（左）（右）が取り付けいていたねじ穴部に、付属の『②M6トラス頭ねじ』（左・右各 2 本）を取り付けます。

(3) 製品左背面に輸送金具（左）を、取りはずした M6 ねじ（2 本）で取り付けます。

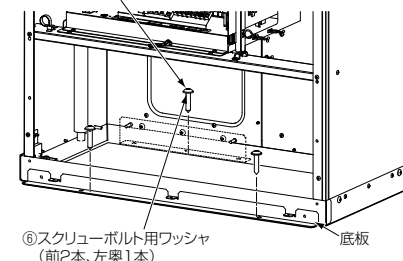
(4) 製品右背面のねじ穴部 2 か所に、残りの取りはずした M6 ねじ（2 本）を取り付けます。



2 室内機を機械室に入れます。
室内機側面と壁は 40mm 以上離してください。

3 底板の穴および、輸送金具の穴を利用して床面に固定します。
床面への固定は、『⑤スクリーボルト』またはアンカーボルトにて 3 か所実施してください。
床面が木製で、付属の『⑤スクリーボルト』と『⑥スクリーボルト用ワッシャ』を用いて固定する場合、下穴の目安はφ5mm です。

⑤スクリーボルト(前2本、左奥1本)



お願い

室内機床面固定が完了したら、前底板を取り付けてください。

2 ドレン配管

⚠ 警告

ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するよう配管する

排水に不備がある場合は屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になります。



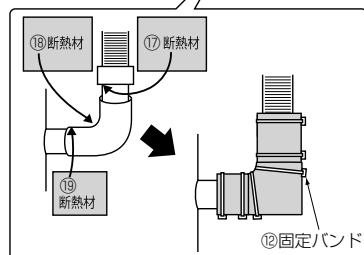
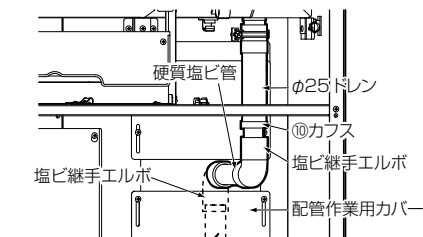
お願い

- ドレンは自然排水ですのでドレン配管は下り勾配（1 / 100 以上）となるようにして、途中にトラップや山越えを作らないよう施工してください。
- ドレン配管の横引きは 20m（高低差は含みません）以下にしてください。また、ドレン配管が長い場合には、途中に配管を支える支持金具を設置して配管の波打ちを防止してください。エア抜き管は絶対に付けしないでください。ドレンが吹き出る場合があります。
- 冷媒配管と同じように主ドレン配管にも十分な断熱処理を施してください。（発泡ポリエチレンフォーム 厚さ 6mm 以上）
- 配管が完成しましたら、吸込パネルとエアフィルタをはずし、ドレン皿へ水を流して排水確認とドレンホース接続部からの水漏れ確認を行ってください。
- 排水確認が完了したら吸込パネルとエアフィルタをもとどおり取り付けてください。

配管材料・断熱材

配管工事には下記材料を現地手配してください。

配管材料	硬質塩ビ管 呼び径（内径）φ 25
	塩ビ継手エルボ 呼び径 φ 25



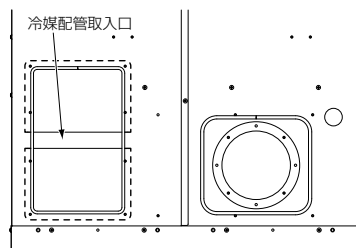
お願い

- 硬質塩ビ管の接続には、塩ビ用接着剤を使用し、水漏れのないよう確実に行ってください。
- 接着剤の乾燥硬化（接着剤の取扱説明書を読んでください。）するまでに時間を要しますので、その間ドレン配管との接続部に力が加わらないようにしてください。
- 室内機の主ドレン貫通穴をシリコン等でコーキングして隙間がないようにしてください。

配管の方法

ドレン配管は室内機背面の冷媒配管取入口より引き出してください。

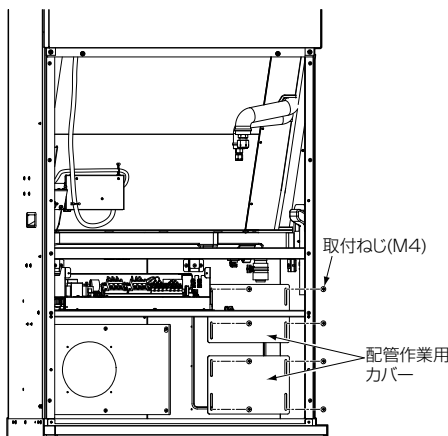
なお、この穴は冷媒配管も引き出します。



配管作業用カバーをははすと作業がしやすくなります。

配管作業用カバー取付ねじ（M4）8 本をははして、カバーをははしてください。

作業終了後、元にもどしてください。



お願い

- φ25用主ドレンは、ホースの長さを決めてカットし、付属の『⑩カフス』を塩ビ用接着剤を使用し接続してください。

3 加湿器給水配管

⚠ 注意

配管内のフラッシングは必ず行う

フラッシングが不十分だと、加湿器が濡れなかったり、異臭の原因になります。

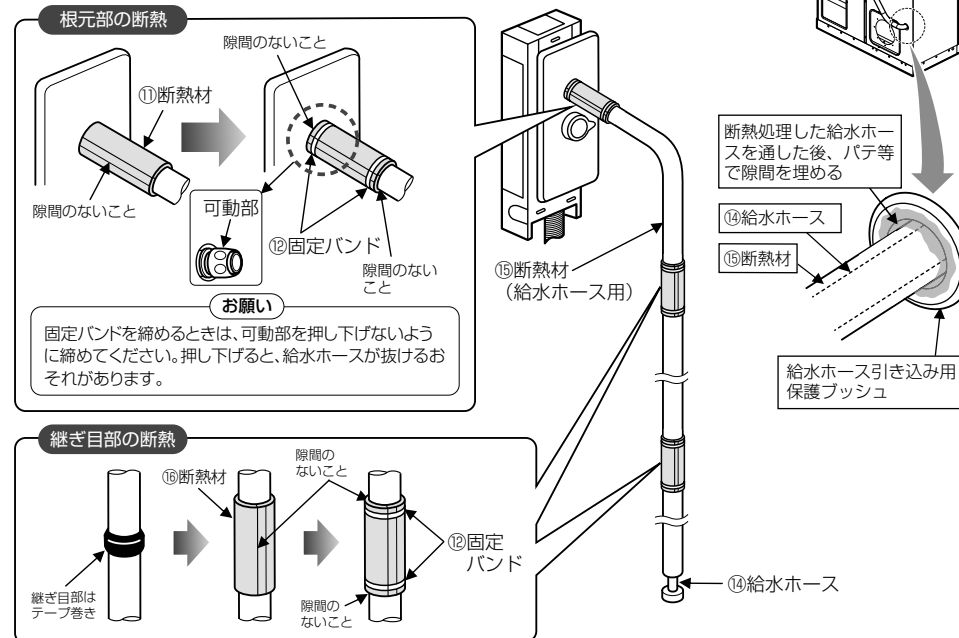


お願い

- 据え付け時およびメンテナンス時の給水接続は当該水道事業者の条例、基準に従ってください。
- 現地給水管内の油分・塵埃などを除去するために、最初に出てくる水はバケツ等を受けて捨ててください。水がきれいになったら加湿器の給水口に接続してください。
- 付属の給水ホースにゴミなどが入っていないことを確認してください。
- 給水ホースに断熱処理をしてください。
- 給水ホースの最小曲げ R は、R60 以上にしてください。

給水配管

- ①室内機裏面の給水ホース引き込み用保護ブッシュの中央部に室内機後ろ側から押し取りはずします。開口部をヤスリなどで仕上げてください。
- ②『⑭給水ホース』を付属の『⑮断熱材』にて断熱処理を行ってください。『⑮断熱材』と『⑮断熱材』の継ぎ目に隙間ができないようにビニールテープ等を巻きます。ビニールテープの上から付属の『⑮断熱材』を巻いて、『⑫固定バンド』で両端を締め付ける処理を行い隙間ができないようにしてください。
- ③断熱処理した『⑭給水ホース』を給水ホース引き込み用保護ブッシュから室内機外部に引き出してください。



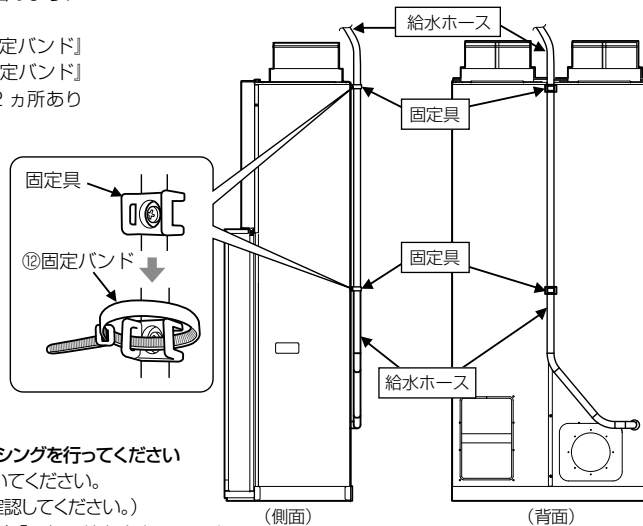
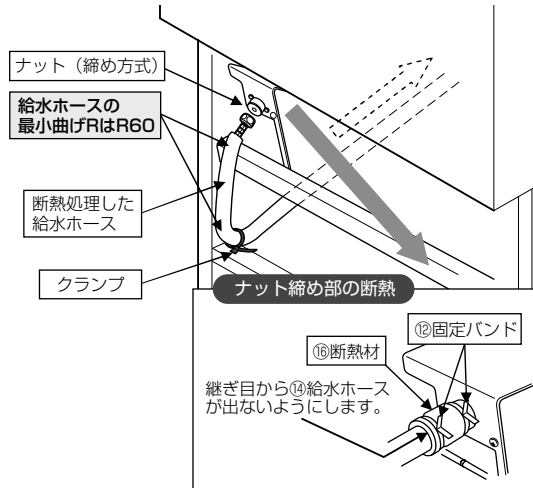
加湿器給水配管 (つづき)

- ④加湿器本体の給水口に『⑭給水ホース』を接続してください。
接続はナット式です。
図を参照の上接続してください。
(締付けトルク 14 ~ 16N・m)

お願い

トルクをかけ過ぎますと、据付条件によっては、ナットやパッキンが割れて水が漏れる場合があります。

- ⑤ナット部は『⑯断熱材』を巻き、『⑫固定バンド』で両端を締め付ける処理を行ってください。(耐圧検査、水漏れ検査を行う場合は、検査完了後に行ってください。)
- ⑥断熱処理した『⑭給水ホース』をクランプで固定してください。
- ⑦室内機の給水ホース引き込み穴の隙間をウレタン、パテなどで埋めてください。
- ⑧断熱処理した『⑭給水ホース』を図のように引き回してください。
- ⑨固定具の穴 2 カ所に付属の『⑫固定バンド』を通し、『⑭給水ホース』を『⑫固定バンド』にて止めてください。(固定具は 2 カ所あります。)



試運転

試運転の前にナット部をゆるめてフラッシングを行ってください

- 加湿器の給水用サービスバルブを開いてください。
(ナット部などからの水漏れがないか確認してください。)
- 元電源を入れてください。10 ページ「電気配線」を参照してください。
- リモコンの運転/停止ボタンを押し、運転切換ボタンで暖房運転にしてください。
- 温度設定を希望の温度にします。
(温度設定によってはすぐ暖房運転に入らない場合があります。その時は、温度設定を最大の 29℃に設定するか、試運転モードにして確実に運転してください。)
- 加湿ボタンを押して、加湿運転を開始します。
(次のことを確認してください。)
- ①正常に給水され、加湿エレメントが濡れているか?
- ②エレメントを流れ落ちた水がドレン皿から排水されているか?
- 再び、運転/停止ボタンを 4 秒以上押し続けると、システムを全停止します。
(次回からは、運転/停止ボタンを押すだけで、記憶された前回のモードで運転します。
温度設定は希望の温度にしてください。)

4 冷媒配管

警告

作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気をする
冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。



設置工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。



配管許容長さおよび許容落差

室外機により異なります。詳細は室外機に付属の据付説明書に従ってください。
※最短配管長は下表の通りとし、ループを取るなどして配管長を確保してください。
これより短い場合、圧縮機などの故障の原因となります。

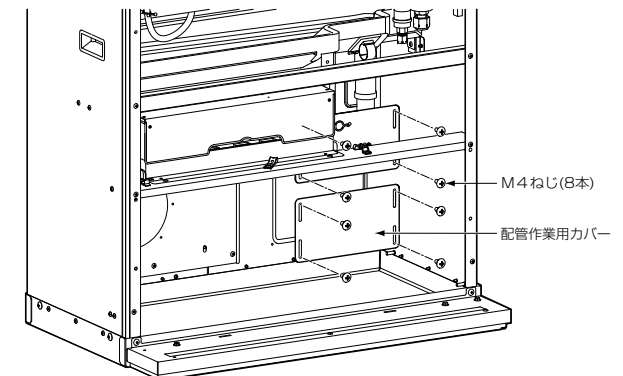
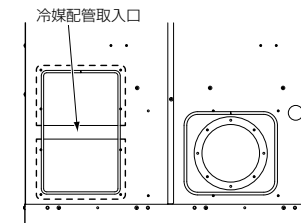
機 種	最短配管長
温暖地向け Y2-2	3m
寒冷地向け N1-2	5m

配管材料およびサイズ

配管材料	空調用リン脱酸銅継目無管 (C1220T-O)
ガス側	φ 15.9
液 側	φ 9.5
肉厚	φ 9.5 : 0.8mm φ 15.9 : 1.0mm

冷媒配管の接続

配管作業用カバーをははずすと作業がしやすくなります。
M4 ねじ (8 本) をはずして、配管作業用カバーを室内機からはずします。
作業終了後、元にもどしてください。



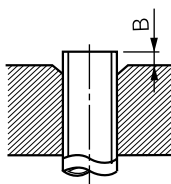
冷媒配管 (つづき)

●フレア加工

- ①パイプカッターで配管を切断します。
バリは必ず取ってください。(ガス漏れの原因となります)
- ②フレアナットを配管に挿入後、フレア加工をします。
フレアナットは本体付属のもの、または R410A 用のものをご使用ください。
R410A 用のフレア加工寸法は、従来の R22 用とは異なります。R410A 用に新規に製作されたフレアツールをおすすめしますが、従来のツールでも下表の通り銅管の出し代を調整すれば、使用できます。

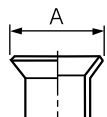
●フレア加工の銅管出し代：B (単位：mm)

銅管外径	リジッド (クラッチ式) の場合		インペリアル (ウイングナット) の場合
	R410A 用ツール使用時	従来ツール使用時	
9.5	0 ~ 0.5	1.0 ~ 1.5	1.5 ~ 2.0
15.9			2.0 ~ 2.5



●フレア部加工寸法：A (単位：mm)

銅管外径	A ± 0.4
9.5	13.2
15.9	19.7



※従来のフレアツールを使って R410A 用のフレア加工をする場合は、R22 のときより約 0.5mm 多めにさせば規定のフレア寸法に加工できます。出し代の寸法調整は銅管ゲージを使用すると便利です。

フレア加工後、加工部に傷、切粉付着、変形、扁平などが無いことを確認してください。

- 封入ガスは大気圧しか封入されていないので、フレアナットをはずしたとき「プシュー」という音がしますが異常ではありません。
- 室内機の配管接続は必ずダブルスパナにて行ってください。

- 締付トルクは下表によってください。

接続配管外径 (mm)	締付トルク (N・m)
φ 9.5	34 ~ 42 (3.4 ~ 4.2kgf・m)
φ 15.9	68 ~ 82 (6.8 ~ 8.2kgf・m)

フレア面への冷凍機油の塗布は行わないでください。

●フレア配管接続部の締付トルク

R410A は R22 に比べ、圧力が約 1.6 倍と高くなります。従って、室内・室外の各ユニットを接続するフレア配管接続部は、トルクレンチを使用して規定の締付トルクで確実に締め付けてください。接続に不備がありますとガスリークだけでなく、冷凍サイクル故障の原因にもなります。

お願い

トルクをかけ過ぎますと、据付条件によってはナットが割れる場合があります。



ダブルスパナ作業

エアパージ

- 真空ポンプを使用して、室外機のチャージポートから真空引きを行います。
- 室外機に封入の冷媒を使ったエアパージは絶対にしないでください。

お願い

チャージホースなどのツールは、R410A 専用に製作されたものを使用してください。

追加冷媒量

冷媒の追加は室外機の据付説明書に従い、冷媒「R410A」を追加してください。
必ずハカリを使用して定量封入し、追加量は規定量を必ず守ってください。

お願い

- 冷媒の過剰封入や過少封入は、圧縮機の故障を引き起こす原因になります。
必ず規定量を守ってください。
- 作業実施者は室外機のサービスパネルに貼り付けてある銘板に配管長さや追加冷媒量を必ず記入してください。圧縮機および冷凍サイクル故障時の原因究明に必要です。

- 1) フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられています。
- 2) この製品は地球温暖化防止のため、適正にフロン類を回収する必要があります。
- 3) フロン類の種類及び GWP (地球温暖化係数)

種類	冷媒番号	GWP
HFC	R410A	2090



室外機バルブを全開に

室外機バルブを全開にします。弁棒の操作については室外機の据付説明書をご覧ください。

ガスリークチェック

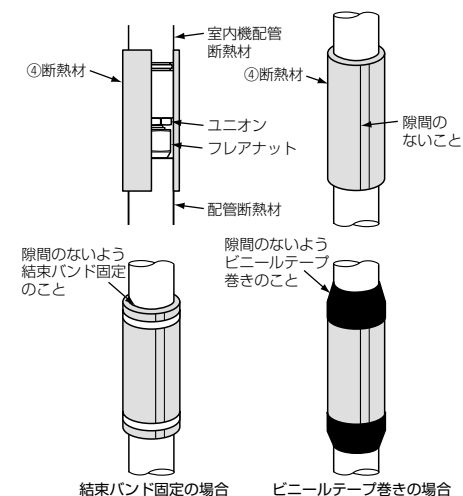
リークディテクタや石けん水で配管接続部やバルブのキャップ部からガス漏れがないか確認します。

お願い

リークディテクタは、HFC 冷媒 (R410A, R134a など) 専用に製作されたものを使用してください。

断熱処理

- 配管の断熱は液側とガス側の両方を行ないます。
- 冷房時、液側・ガス側ともに低温になりますので結露防止のため必ず液側・ガス側とも断熱してください。
 - ガス側配管の断熱材は必ず耐熱温度 120℃ 以上のものを使用してください。
 - 室内機の配管接続部は、付属の『④断熱材』を用いて隙間なく確実に断熱処理してください。
 - 配管断熱材と付属の『④断熱材』との間に隙間ができないよう、ビニールテープ (現地手配) を巻き付けるか結束バンド (現地手配) で両端を締め付ける等の処理を行ってください。
- ※配管断熱材と付属の『④断熱材』との間に空気が入ると、結露・水漏れの原因になります。



結束バンド固定の場合

ビニールテープ巻きの場合

配管取入口のシール

冷媒配管・ドレン配管の接続が終わったら配管取入口の隙間を『⑧パテ』で埋めてください。

5 換気ユニット用断熱ダクトの取り付け

8

⚠ 注意

断熱ダクトは指定のものを使う

他のダクトは性能低下や露付きの原因になることがあります。



断熱ダクトは隙間なく確実に接続する

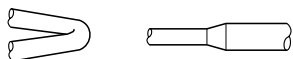
隙間があると空気が漏れ、結露により家財などを濡らす原因になります。



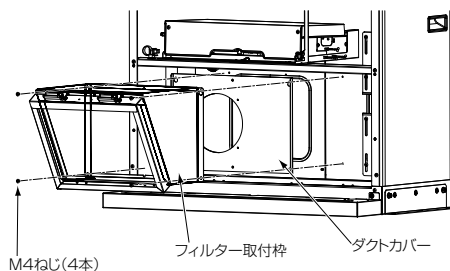
取り付け上のお願

次のようなダクト工事はしないでください。

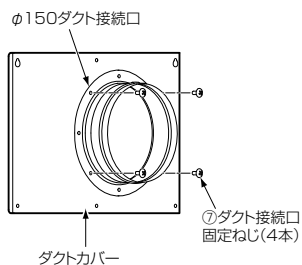
- 極端な曲げ
- 接続ダクト径を小さくする



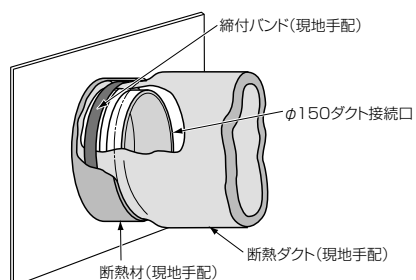
- 1 M4 ねじ (4 本) をはすし、フィルター取付枠とダクトカバーを室内機からはずします。



- 2 ダクトカバーに $\phi 150$ ダクト接続口を付属の「⑦ダクト接続口固定ねじ(4本)」で取り付けます。



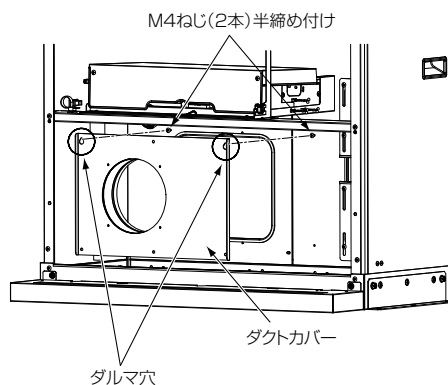
- 3 室内機の穴から断熱ダクトを 100mm ほど引き出します。
 $\phi 150$ ダクト接続口に断熱ダクトをはめ込み、締付バンド (現地手配) で締め付け、締付バンド部を断熱します。



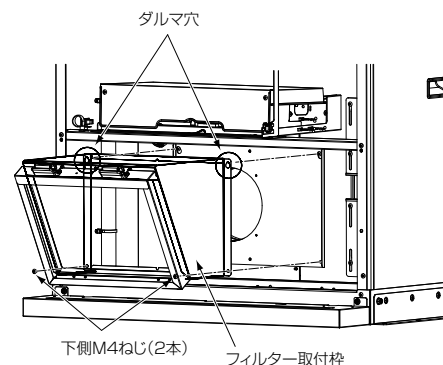
お願い

- 断熱ダクトの接続には、必ず締付バンドを使用してください。
- 断熱ダクトの接続部は、必ず断熱してください。断熱しない場合、結露の原因となります。

- 4 ダクトカバーを室内機に取り付けます。
室内機に M4 ねじ (2 本) を半締め付けで取り付け、ダクトカバーのダルマ穴を引っ掛けます。



- 5 ダクトカバーを引っ掛けた M4 ねじ (2 本) にフィルター取付枠のダルマ穴を引っ掛けて取り付け、半締めめの M4 ねじ (2 本) を締め付け、下側に M4 ねじ (2 本) を締め付けて固定します。



6 空調用断熱ダクトの取り付け

⚠ 注意

断熱ダクトは指定のものを使う
他のダクトは性能低下や露付きの原因になることがあります。



断熱ダクトは隙間なく確実に接続する
隙間があると空気が漏れ、結露により家財などを濡らす原因になります。

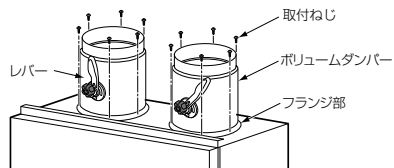


断熱ダクトは、無理な力がかからないよう吊金具などで固定する
無理な力がかかると隙間ができ、空気が漏れて結露により家財などを濡らす原因になります。



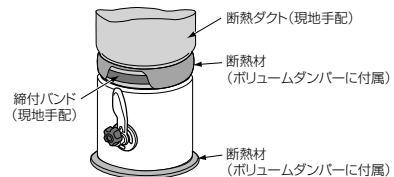
ボリュームダンパーの取り付け

1 ボリュームダンパー（RBN-JD250K：別売）を室内機上部にレバーが手前になるようにしてねじ止めます。
（各 6 本、合計 12 本）
ねじはボリュームダンパーに付属しています。

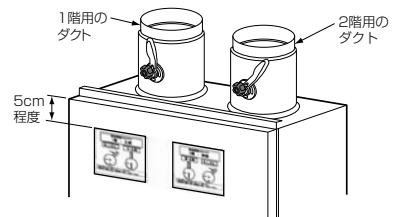


2 ボリュームダンパーのフランジ部に断熱材をはり付けます。断熱材はボリュームダンパーに付属しています。

3 断熱ダクトをボリュームダンパーにはめ込み、締付バンド（現地手配）で締め付け、締付バンド部を断熱します。

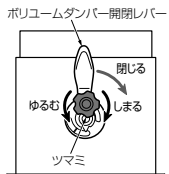


4 付属の『⑧風量調整ラベル』2 枚を室内機正面の上部に貼り付けます。ダクトとラベルの組み合わせを必ず合わせてください。
（ex.1 階用のダクトと 1 階用のラベル、2 階用のダクトと 2 階用のラベル）



風量調整

冷暖房シーズンの初めには、1・2 階の風量を変えるため、ボリュームダンパーの調整を行います。
夏期の冷房運転時は 2 階の風量を多く（冷たい空気は下へ向かいます）し、冬期の暖房時は 1 階を多く（暖かい空気は上へ向かいます）し、家全体の温度分布が均一になるよう調整します。



- 風量を調節するときは、ツマミをゆるめ正面のレバーにより開閉し、ツマミをしめてレバーを固定します。
- レバーを右に回すと閉じ、風量を減少させます。

	1階用	2階用
夏	絞る 	全開
冬	全開 	絞る

7 電気配線

⚠ 警告

配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように**確実に固定する**
接続や固定が不完全な場合は、火災などの原因になります。



アース工事を行う
アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。
アースが不完全な場合は、感電の原因になります。



電源電線・室内外接続線は途中接続、ヨリ線や単線どうしの接続およびヨリ線の先端に単線を接続することは**絶対に行わない**
接続や固定が不完全な場合は、発熱・火災の原因になります。



電気工事は、電気工事士の資格のある方が、電気設備に関する技術基準、内線規程および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。また、電圧は製品の定格電圧と合わせる。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。



⚠ 注意

漏電ブレーカーの取り付けが必要
漏電ブレーカーが取り付けられていないと感電の原因になることがあります。



お願い

- 電源配線は所轄の電力会社の規定および電気設備基準に従って行ってください。
- 室外機の電源は各室外機の据付説明書に従って配線してください。
- リモコン端子板【A・B】には 200V 電源を絶対に接続しないでください。（故障します）
- 電気配線は配管の高温部に接触しないようにしてください。被覆が溶け事故の原因となる場合があります。

電源仕様

電源仕様は下表にしたがってください。容量が小さいと過熱・焼損等の発生原因となり危険です。
室外機の電源容量および電源線の仕様は室外機に付属の据付説明書に従ってください。

電 源 (50/60Hz)	アース線	室内外接続線
三相 200V	φ2.0mm	φ1.6mm×3本

※記載の配線サイズは、最小サイズとなります。

リモコン渡り配線	VCTF：0.5mm ² ～2.0mm ² ×2本 リモコン配線の長さ：50mまで
----------	--

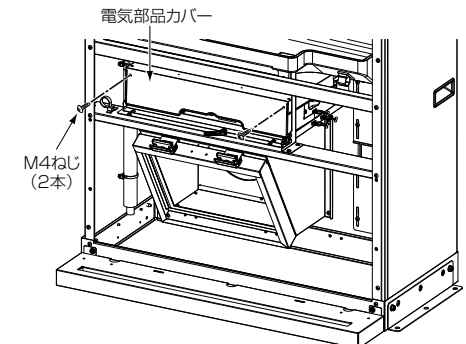
リモコン線（通信線）と AC100V/200V の配線と直接接させたり、同一電線管に収めることができません。
ノイズ等により制御系統に異常が生じる恐れがあります。

室内機と室外機の配線

配線は必ず端子番号を合わせて接続してください。接続を正しく行いませんと故障の原因となります。

■ 電気部品箱カバー取りはずしかた

電気部品箱手前の M4 ねじ（2 本）をはずし、電気部品箱カバーをはずしてください。



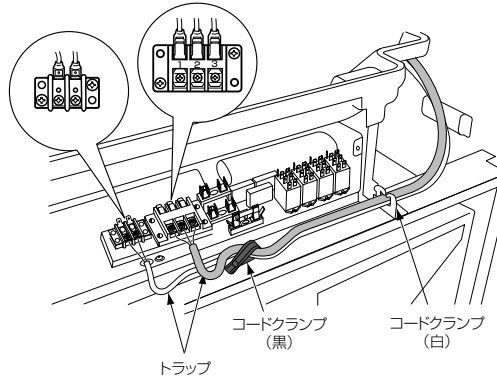
電気配線 (つづき)

■ 室内機電気部品箱への配線

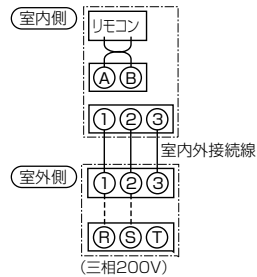
配線は室内機背面の冷媒配管取入口より引き込みます。

配線は図のように冷媒配管取入口から、コードクランプ(白)を通して端子板に入れ、コードクランプ(黒)にて固定します。

このとき、配線にトラップを設け、端子板の接続部にテンションがかからないようにしてください。

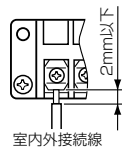


● 配線図



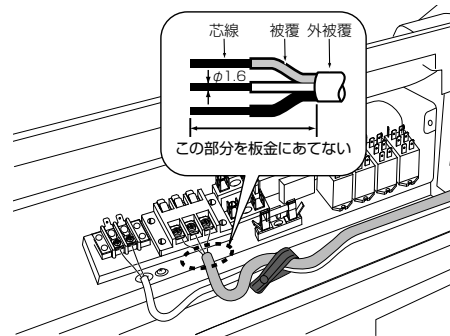
配線の取り付け位置

端子板に接続する配線は、右図の寸法を確保してください。



配線接続

Fケーブルの被覆部が板金にあたらないように、皮ムキ長さを調整してください。



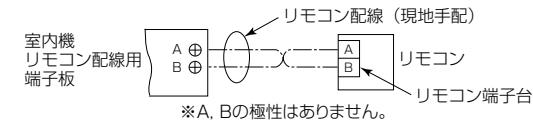
● お願い

- 室内外接続線の配線は、必ず端子番号を合わせて接続してください。接続を正しく行わないと故障の原因となります。
- リモコン渡り線には、極性がないので、室内機端子板 A、B への接続は、逆になってもかまいません。
- リモコンの回路は低電圧回路です。内線規程に従って配線してください。
- 配線は端子板に接続した後、トラップを取り、コードクランプ(黒)で固定してください。

リモコンの配線

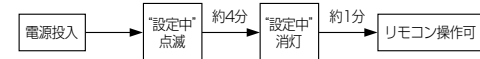
- 接続する電線の被覆を約 14mm 剥きます。
- 接続するリモコン配線を室内機リモコン配線用端子板と、リモコン端子台にネジ止めします。
- リモコン配線には極性がないので、室内機端子板、リモコン端子台 A、B への接続は逆になってもかまいません。

● 配線図

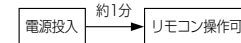


● お願い

はじめてお使いの時は、電源が入ったあとリモコンが操作を受け付けるまで時間がかかりますが、故障ではありません。
〈据付後初回電源投入時〉リモコン操作ができるまで約 5 分かかります。

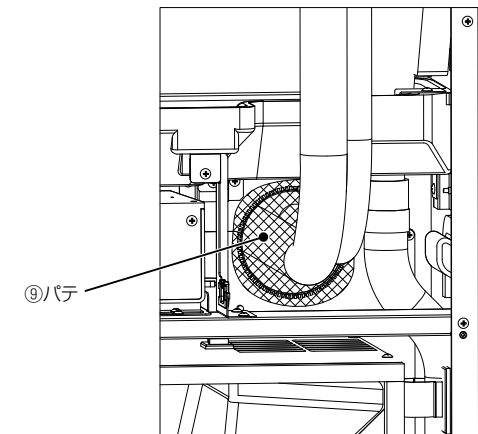


〈2 回目以降電源投入時〉リモコン操作ができるまで約 1 分かかります。



配管穴のシール

- 冷媒配管穴の余ったすき間を『⑨パテ』でふさぎます。



8 仕上げ

仕上げ

1. 冷媒配管・ユニット間の配線およびドレン配管が完了したら、仕上げテープを巻きます。
2. 仕上げテープを巻いたら支持金具などで壁に固定してください。

お願い

電線（電源及びユニット間のケーブル）は、ガス側のバルブや断熱材のない配管には接触しないようにしてください。
電線は断熱材をかぶせた部分の配管へ固定してください。

9 試運転

試運転の前に

- 電源を入れる前に、次のことを行ってください。
 - (1) 電源端子板とアース間を 500V メガーで計って 1 MΩ 以上あることを確認します。
1 MΩ 未満のときは運転しないください。
※アースと配線が確実に行われているか確認してください。
 - (2) 室外機のバルブが全開になっているか確認してください。
- 起動時のコンプレッサ保護のために、電源を入れ 12 時間以上通電してください。

試運転の方法

リモコンにて通常操作で試運転を行ってください。
運転の手順は、付属の取扱説明書に従ってください。

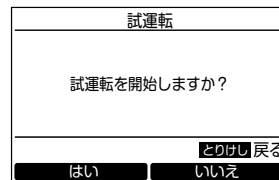
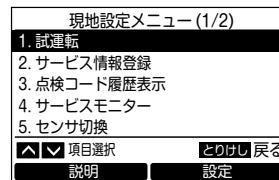
室温がサーモオフするような条件では、以下の手順で強制試運転ができます。
強制試運転は、連続運転を防止するため運転が 60 分を経過すると試運転を解除し、通常運転に戻ります。

注) 強制試運転は機器に無理が掛かりますので、試運転以外では使用しないでください。

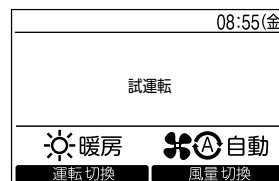
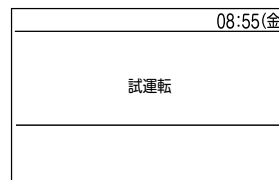
- ① メニュー画面で『メニュー』と『V』を 4 秒以上同時に長押しして、「現地設定メニュー」画面にします。



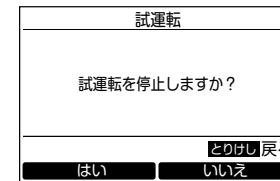
- ② 『V』を押して **1. 試運転** を選び、**設定** 『風量切換 / F2』を押します。「試運転を開始しますか？」と表示され、**はい** 『運転切換 / F1』を押すと試運転画面に移行します。



- ③ 『運転 / 停止』を押すと、試運転を開始します。『運転切換 / F1』で運転モードを、『風量切換 / F2』で風量を選んで試運転を行ってください。



- ④ 試運転を終了する時は、再度①の手順で『V』を押して **1. 試運転** を選び、**設定** 『風量切換 / F2』を押します。「試運転を停止しますか？」と表示され、**はい** 『運転切換 / F1』を押すと通常画面に戻ります。



試運転が正常ではないとき

- リモコンに表示される点検コードを確認し、「10. 点検コード一覧」項目内の点検コードと点検箇所を参照してください。

試運転のあとに

試運転終了後、14 ページの「点検コード履歴表示」の手順にそって点検コード履歴をクリアしてください。

10 現地設定メニュー

12

サービス情報登録

連絡先情報入力

メニュー画面→4. エアコンQ & A→4. 修理などの
お問合せ先に表示する連絡先を設定します。

お知らせ

出荷時は何も表示されない設定になっています。
※この設定は親リモコンのみ可能です。子リモコンで
は設定できません。

- ① メニュー画面で『メニュー』と『V』を4秒以上
同時に押し、「現地設定メニュー」にします。

現地設定メニュー (1/2)	
1. 試運転	
2. サービス情報登録	
3. 点検コード履歴表示	
4. サービスモニター	
5. 温度表示設定	
項目選択	とひはし戻る
説明	設定

- ② 『^』『V』を押して **2. サービス情報登録** を選び、
設定 『風量切換/〔F2〕』を押します。

サービス情報登録 (1/2)	
1. 連絡先情報入力	
2. 室外機形名入力・選択	
3. 室外機製造番号入力・選択	
4. 室内機形名入力・選択	
5. 室内機製造番号入力・選択	
項目選択	とひはし戻る
設定	

- ③ 『^』『V』を押して **6. 連絡先情報表示有無選択** を
選び、**設定** 『風量切換/〔F2〕』を押します。

サービス情報登録 (2/2)	
6. 連絡先情報表示有無選択	
項目選択	とひはし戻る
設定	

- ④ **←●** 『運転切換/〔F1〕』を押して表示するを
選択し、『メニュー』を押します。

連絡先情報表示有無選択	
修理などのお問い合わせ先を Q & A画面に 表示する / ●表示しない	
メニュー	確定 とひはし戻る
←●	●→

連絡先情報表示有無選択	
修理などのお問い合わせ先を Q & A画面に ●表示する / 表示しない	
メニュー	確定 とひはし戻る
←●	●→

- ⑤ 『とりけし』を押して設定を終了します。

- ⑥ 『^』『V』を押して **2. サービス情報登録** を選び、
設定 『風量切換/〔F2〕』を押します。

サービス情報登録 (1/2)	
1. 連絡先情報入力	
2. 室外機形名入力・選択	
3. 室外機製造番号入力・選択	
4. 室内機形名入力・選択	
5. 室内機製造番号入力・選択	
項目選択	とひはし戻る
設定	

- ⑦ 『^』『V』を押して **1. 連絡先情報入力** を選び、
設定 『風量切換/〔F2〕』を押します。

画面 A でカタカナ・英数字を入力することができ
ます。

『^』『V』と <カーソル> 『運転切換/〔F1〕』、
<カーソル> 『風量切換/〔F2〕』で文字を選択し、
『メニュー』を押すと画面上部に文字が表示されます。

画面 A	
連絡先 :	
アイウエオ	ハヒフヘホ
カキクコ	マミムメモ
サシセソ	ヤユヨ
タチテト	ラリルロ
ナニネノ	クワン
数字	記号
定型	削除
確定	
カーソル上下	メニュー
文字決定	
<カーソル>	カーソル>

画面 B のように「定型」を白黒反転表示させて『メ
ニュー』を押すと画面 C が表示され、定型文字を
入力することができます。

画面 B	
連絡先 :	
アイウエオ	ハヒフヘホ
カキクコ	マミムメモ
サシセソ	ヤユヨ
タチテト	ラリルロ
ナニネノ	クワン
数字	記号
定型	削除
確定	
カーソル上下	メニュー
文字決定	
<カーソル>	カーソル>

画面 C	
連絡先 :	
居間	玄関
和室	子供
寝室	部屋
食堂	廊下
環境	機器
階段	上
東側	下
西室	前
南右	後
北左	芝
文字	削除
確定	
カーソル上下	メニュー
文字決定	
<カーソル>	カーソル>

- ⑧ 文字を削除するときは、「削除」を白黒反転表示さ
せて『メニュー』を押します。

- ⑨ 連絡先名称を決定するときは、「確定」を白黒反転
表示させて『メニュー』を押します。

- ⑩ 続いて電話番号入力画面が表示されます。
『^』『V』で数字を変更、<カーソル> 『運転切換/
〔F1〕』、<カーソル> 『風量切換/〔F2〕』で番号桁を
移動させて電話番号を入力します。
入力が終わったら、『メニュー』を押すと入力した
電話番号が登録されます。

サービス情報登録	
電話番号を入力してください	
-	
項目選択	とひはし戻る
<カーソル>	カーソル>

- ⑪ 修理などのお問合せ先を選択すると、
次の画面が表示されるようになります。

修理などのお問合せ先	
連絡先	
○○○○○○○	
○○○-○○○-○○○	
とひはし戻る	

現地設定メニュー (つづき)

製品形名・製造番号入力

メニュー画面→エアコンQ&A→3. 製品形名・製造番号に表示する内容を設定します。

- ・室内機はあらかじめ基板に登録された情報を読み出し、リモコンに表示する設定になっています。
- ・室外機は本手順に沿って手入力が必要です。
- ・室内基板をサービス基板に交換する際は、室内機も同様の設定を行ってください。

* この設定は親リモコンのみ可能です。子リモコンでは設定できません。

- ① サービス情報登録画面で『へ』『✓』を押して、

2. 室外機形名入力・選択 を選んで、

設定 『風量切換/〔F2〕』を押します。

室外機の製造番号を入力する場合は

3. 室外機製造番号入力・選択 を

室内機の形名を入力する場合は

4. 室内機形名入力・選択 を

室内機の製造番号を入力する場合は

5. 室内外機製造番号入力・選択 を選んで、

設定 『風量切換/〔F2〕』を押します。

サービス情報登録 (1/2)	
1. 連絡先情報入力	
2. 室外機形名入力・選択	
3. 室外機製造番号入力・選択	
4. 室内機形名入力・選択	
5. 室内機製造番号入力・選択	
へ/✓ 項目選択	と/はし 戻る
	設定

- ② 室外機形名入力・選択画面で『へ』『✓』を押して、

1. 室外機形名入力・変更 を選んで

設定 『風量切換/〔F2〕』を押します。

室外機形名入力・選択	
1. 室外機形名入力・変更	
2. 室外機形名表示選択	
表示する室外機形名	
へ/✓ 項目選択	と/はし 戻る
	設定

- ③ 室外機形名を入力します。

入力方法は連絡先情報入力を参照してください。

(→ 12 ページ右側③)

室外機形名 :	
1234567890	FGHIJ
KLMNO	PQRST
UVWXY	Z&/:・
削除	確定
へ/✓ カーソル下メニュー 文字決定	
<カーソル	カーソル>

入力が終わったら『メニュー』を押して、文字を決定します。

- ④ 室外機形名入力・選択画面で『へ』『✓』を押して、

2. 室外機形名表示選択 を選んで

設定 『風量切換/〔F2〕』を押します。

室外機形名入力・選択	
1. 室外機形名入力・変更	
2. 室外機形名表示選択	
表示する室外機形名	
NTS-A1123D2	
へ/✓ 項目選択	と/はし 戻る
	設定

- ⑤ ←● 『運転切換/〔F1〕』を押してリモコンを選択し『メニュー』を押します。

③で入力した文字が表示されるようになります。

* ●→ 『風量切換/〔F2〕』で室外機を選ぶと形名は表示されません。

室外機形名表示選択	
●リモコン / 室外機	
メニュー 確定 と/はし 戻る	
←●	●→

- ⑥ 同様の方法 (①～⑤) で室外機製造番号を入力します。

* 室内基板をサービス基板に交換した場合は同様の手順で室内機形名と製造番号を入力します。

点検コード履歴表示

点検コード	室内ユニットNo
点検コード P10	ユニット 1-1
設定温度	
23℃	
Ⓐ 自動	Ⓐ 自動
運転切換	風量切換

エアコンに不具合が発生した場合、リモコン表示部に点検コードと室内ユニットNoが点滅表示されます。

* 点検コードは運転中のみ表示されます。

ユニットに不具合が発生した場合、以下の手順で故障履歴を確認できます。(故障履歴は4つまでメモリされます。) 運転および停止状態のどちらからでも確認できます。

現地設定メニュー (1/2)	
1. 試運転	
2. サービス情報登録	
3. 点検コード履歴表示	
4. サービスモニター	
5. センサ切換	
へ/✓ 項目選択	と/はし 戻る
説明	設定

点検コード履歴表示			
ユニット	コード	日付	時間
1. 1-2	E04	2010/10/10	12:25
2. -	-	-	-
3. -	-	-	-
4. -	-	-	-
と/はし 戻る			
履歴消去			

●リモコン故障履歴データの消去

点検コード履歴表示	
点検コード履歴をすべて消去します。	
よろしいですか?	
と/はし 戻る	
はい	いいえ

- 1 現地設定メニュー画面で『へ』『✓』を押して **3. 点検コード履歴表示** を選んで **設定** 『風量切換/〔F2〕』を押す

点検コード履歴データは、4件分の履歴が表示されます。

※4件を越す場合は、古いデータ順に自動消去されます。

→ 同じ点検コードが繰り返し発生している場合は、一番最初に発生した日時を表示します。

- 1 点検コード履歴表示画面表示中に **履歴消去** 『風量切換/〔F2〕』を押す

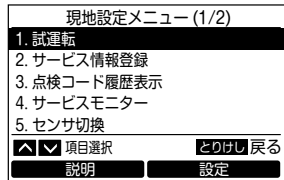
- 2 「点検コード履歴をすべて消去しますよろしいですか？」が表示されるので **はい** 『運転切換/〔F1〕』を押す

2 リモコンで使用している場合、それぞれのリモコンで履歴の消去を行ってください。

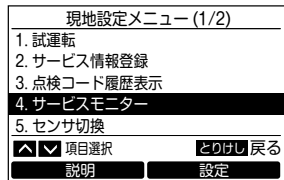
現地設定メニュー（つづき）

サービスモニター

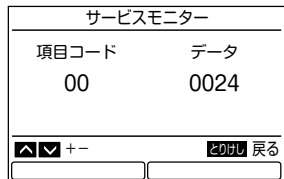
- ① メニュー画面で『メニュー』と『V』を4秒以上同時に押し、「現地設定メニュー」画面にします。



- ② 『^』『V』を押して **4. サービスモニター** を選び、**設定** 『風量切換/F2』を押します。



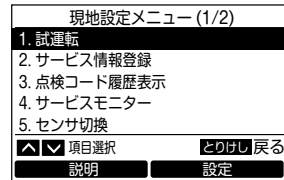
- ③ 『^』『V』を押して項目コードを選べと、対応したセンサーなどの情報が表示されます。
項目コードとデータについては、サービスガイドを参照してください。



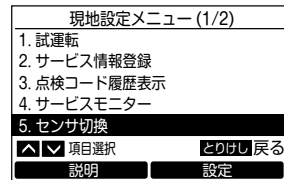
- ④ 『とりけし』を押すと「現地設定メニュー」画面に戻ります。

センサ切換

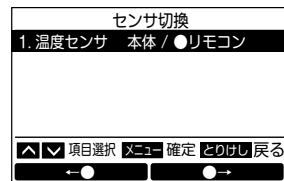
- ① メニュー画面で『メニュー』と『V』を4秒以上同時に押し、「現地設定メニュー」画面にします。



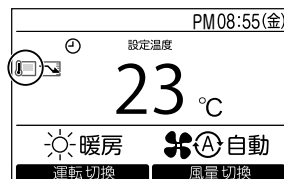
- ② 『^』『V』を押して **5. センサ切換** を選び、**設定** 『風量切換/F2』を押します。



- ③ **←●** 『運転切換/F1』で室内機本体センサを、**●→** 『風量切換/F2』でリモコンセンサを選択します。



- ④ 設定が終わったら『メニュー』を押して、設定を終了します。
リモコンセンサに設定した場合、表示画面にアイコンが表示されます。

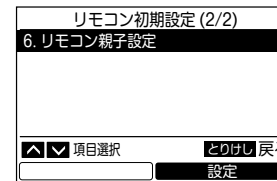


リモコン親子設定

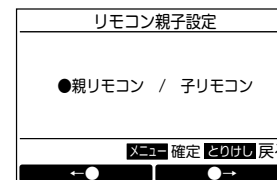
- ① メニュー画面で『^』『V』を押して、**3. リモコン初期設定** を選び、**設定** 『風量切換/F2』を押します。



- ② 『^』『V』を押して **6. リモコン親子設定** を選び、**設定** 『風量切換/F2』を押します。



- ③ 親リモコンに設定する時は、**←●** 『運転切換/F1』を押して親リモコンを子リモコンに設定する時は、**●→** 『風量切換/F2』を押して子リモコンを選択します。



- ④ 『メニュー』を押すと「設定中」画面になり、設定した内容が反映されリモコン初期設定画面に戻ります。



『とりけし』を押すと設定した内容は反映されずリモコン初期設定画面に戻ります。

11 点検コード一覧

●点検コードと点検箇所

ワイヤード リモコン表示部 表示	代表故障箇所	検出	点検箇所と故障内容	システム の状態
E01	リモコン親なし リモコン通信異常	リモコン	親リモコンが設定されていない場合(含む2リモコン) 室内機から信号が受信できない場合	—
E02	リモコン送信不良	リモコン	室内機への信号送信ができない場合	—
E04	室内外シリアル異常 IPDU-CDB間通信異常	室内	渡り線、室内PC板、室外PC板…室内外間シリアル通信に異常のある場合	自動復帰
E09	リモコン親重複	リモコン	リモコンアドレス誤設定…2リモコン制御で2台とも親に設定した場合 (*室内親は警報停止、子は運転継続)	*
E10	CPU間通信異常	室内	室内PC板…メイン・モーターマイコン間のMCU間通信が異常の場合	自動復帰
※E31	IPDU通信異常	室外	IPDU-CDB間の通信が異常の場合	全停止
F01	室内機 熱交センサ(TCJ)異常	室内	熱交センサ(TCJ)、室内PC板…熱交センサ(TCJ)のオープン・ショートを検出した場合	自動復帰
F02	室内機 熱交センサ(TC)異常	室内	熱交センサ(TC)、室内PC板…熱交センサ(TC)のオープン・ショートを検出した場合	自動復帰
F04	室外機 吐出温度センサ(TD)異常	室外	室外温度センサ(TD)、室外PC板…吐出温度センサのオープン・ショートを検出した時	全停止
F06	室外機 温度センサ(TE、TS)異常	室外	室外温度センサ(TE、TS)、室外PC板…熱交温度センサのオープン・ショートを検出した時	全停止
※F07	TLセンサ異常	室外	TLセンサのはずれ、断線あるいはショートの可能性あり	全停止
F08	室外機 外気温センサ異常	室外	室外温度センサ(TO)、室外PC板…室外気温センサのオープン・ショートを検出した時	運転継続
F10	室内機 室温センサ(TA)異常	室内	室温センサ(TA)、室内PC板…室温センサ(TA)のオープン・ショートを検出した場合	自動復帰
※F12	TS(1)センサ異常	室外	TS(1)センサのはずれ、断線あるいはショートの可能性あり	全停止
※F13	ヒートシンクセンサ異常	室外	IGBTのヒートシンク部温度センサにて異常温度を検出した場合	全停止
F29	室内機 他の室内基板異常	室内	室内PC板…E2PROM異常の場合	自動復帰
F31	室外PC板	室外	室外PC板…E2PROM異常の場合	全停止
H01	室外機 コンプレックダウン	室外	電流検出回路、電源電圧…電流リリース制御にてmin-Hz到達時、直流励磁以降の短絡電流(Idc)検出など	全停止
H02	室外機 コンブロック	室外	コンパ回路…コンプレッサのロックを検出した場合	全停止
H03	室外機 電流検出回路異常	室外	電流検出回路、室外PC板…AC-CTにて異常電流を検出した時、欠相を検出した時	全停止
※H04	ケースサーモ動作(1)	室外	ケースサーモの動作異常	全停止
H06	室外機 低圧系異常	室外	電流、高圧スイッチ回路、室外PC板…Ps圧力センサ異常、低圧保護動作	全停止
L09	室内能力未設定	室内	室内機の能力が未設定	全停止
L29	室外機 他の室外機異常	室外	その他室外機異常 1)IPDU-CDB間のMCU間通信が異常の場合 2)IGBTのヒートシンク部温度センサにて異常温度を検出した場合	全停止
L31	相順異常 その他	室外	電源相順、室外PC板…三相電源の相順が異常の時	運転継続 (サーモOFF)
P01	室内機 コネクタ接続異常	室内	CN76コネクタオープンを検出した時	全停止
P03	室外機 吐出温度異常	室外	吐出温度リリース制御にて異常を検出した場合	全停止
P04	室外機 高圧系異常	室外	高圧スイッチ、OLが動作した場合・TEによる高圧リリース制御にて異常を検出した時	全停止
※P07	ヒートシンク過熱異常	室外	IGBTのヒートシンク部温度センサにて異常温度を検出した場合	全停止
P10	室内機ドレン配管異常	室内	ドレン配管が詰まり、ドレンパニルに水が一定量溜った場合	全停止
P19	四方弁異常	室内	四方弁チェック、室内温度センサ(TC、TCJ)チェック…暖房時室内熱交センサの温度低下により異常を検出した場合	自動復帰
※P20	高圧保護動作	室外	高圧保護	全停止
P22	室外機 室外ファン異常	室外	室外ファンモータ、室外PC板…室外ファン駆動回路にて異常(過電流・ロック等)を検出した時	全停止
P26	室外機 インバータIdc動作	室外	IGBT、室外PC板、インバータ配線、コンプレッサ…コンプレッサ駆動回路素子(G-Tr-IGBT)の短絡保護動作が働いた場合	全停止
P29	室外機 位置検出異常	室外	室外PC板、高圧スイッチ…コンプレッサモータの位置検出異常を検出した時	全停止

※Y2-2シリーズのみ

日本キャリア株式会社

〒416-8521 静岡県富士市蓼原336番地

SN:EG99822401-③